

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2425号 2018年09月25日(火曜日)

《 different faces 》

先週のニューヨーク市場と、始まったばかりの今週のそれは、全く異なった側面を見せている。

先週は好調なアメリカ経済（低失業率、物価の望ましい形での上昇、好調な企業業績など）を受けてダウ平均が史上最高値を付けるマーケットだったが、週が明けたばかりの今週は、再び「政治の混乱」「その再燃・激化への懸念」が市場を下方に駆動している。その他日本が休みの間に週初に目立っているのは、ユーロの上昇や今週開催予定の FOMC を控えた米長期金利の3%台維持。

週明けのニューヨーク・ダウは、引値で180ドル以上の下げとなった。「先週の後半に史上最高値を更新したあとの利食い・調整が出ているから」とも理解できるが、それとは別に明確な材料があることは書いておかねばならない。

一つは24日をもってアメリカが中国の幅広い対米輸出品2000億ドル相当に新たに10%の関税を賦課し、米中交渉の入り口が見つからない中で「長期化すればアメリカ経済にとって打撃が大きい」という先週はやや無視された懸念が、週末二日を経て再び台頭したこと。

それに加えて週明けのニューヨーク市場では、先の大統領選挙でのトランプ陣営とロシアとの共謀関係を調査しているムラー特別検察官を監督する立場のローゼンスタイン司法副長官に関わる一連の報道で「アメリカの政治の混乱」への懸念が一気に強まった。彼については、

「(トランプ大統領による) 解任」

「解任を待たずの自らの辞任」

「解任を拒否」

など様々な、異なる報道が出ている。一つホワイトハウス報道官の言明としてはっきりしているのは、「トランプ大統領は米東部時間の今週木曜日の昼に、ローゼンスタイン司法副長官と昼食を取りながら最近の“ニュース”に関して協議（話し合い）の場を持つ」ということ。これはサンダース報道官が発表した。トランプ大統領は今国連総会が開かれているニューヨークに滞在していて、ワシントンに戻るのが今週の後半になるという説明だった。

司法副長官の去就がなぜそれほどマーケットにとっての大きな材料なのか？ それは

「いずれトランプ大統領によるムラー特別検察官の解任に繋がり、それがニクソン政権末期の“土曜日の夜の虐殺” (Saturday Night Massacre) と類似した事件となる」との見方があるため。セッションズ司法長官がロシア疑惑の捜査指揮を自らも疑惑の対象であることから降りて、今は司法副長官（ローゼンスタイン氏）が指揮を執る。その指揮者が解任されれば、「いずれ特別検察官も解任される」との予測も出来る。

「もしそうなれば、ニクソン時代の“土曜の夜の虐殺”に匹敵する。それはいずれトランプ大統領がニクソン大統領の歩いた道に自ら足を踏み入れることになる」と指摘する米民主党関係者もいる。

事の発端は、ニューヨーク・タイムズなどが最近、「ローゼンスタイン副長官は、憲法修正第 25 条（副大統領や閣僚などが大統領を解任する複雑な手続きを定めている）に基づくトランプ米大統領の解任を模索した」と報道したこと。真偽は不明だが、同副長官は政権内で批判にさらされ、いずれトランプ大統領は更迭に動くとの見方が出ていたため。

《 Trump agenda is in peril 》

今のところローゼンスタイン司法副長官は「(大統領のクビのすげ替え画策についての) 米メディアの報道は間違っている」とだけ述べ、自らの去就については口を閉ざしている。問題は今のこの時期が「米中間選挙控え」だということだ。ある市場関係者は、「この手の話が出てくること自体、トランプ大統領の今後の政策運営に対する疑念につながる」と述べている。

未だに米国民の間で「隠れトランプ支持」が多いと思われる中では、世論調査結果をどの程度信用して良いのか不明だ。しかし既に中間選挙では「共和党不利」の見方が世論調査結果では大勢で、下院の過半数を民主党に取られる可能性が強く指摘されている。今回の司法副長官の騒動やカバナー最高裁判事候補（トランプ大統領が指名 女性二人からかつての性的暴行を訴えられている）を巡る騒動が続けば一段とトランプ大統領は「(上院を含めて) 議会を失うリスク」を追うことになる。その場合は、トランプ政権は「立ち往生」の危険性がある。

政権が「立ち往生」になったり、いずれ「トランプ弾劾」にアメリカの政局が進むとして、「それがどの程度、今の好調なアメリカ経済に打撃になるのか」は不明だ。同大統領は「自分が大統領になったから」と成果を喧伝するが、今回の私のアメリカ訪問記でも少し書いたが、「アメリカ経済の持つ多様性」がアメリカ経済を強くしている可能性が強い。

その意味では「何があってもマーケットの政治を理由にした混乱は一時的」とも考えられる。アメリカのダウも 180 ドル以上一日に落ちたと言っても、先週史上最高を更新した後だと考えれば、マーケットが強さそのものを失ったわけではない。Nasdaq は週明けのマーケットでも小幅高だった。その辺の見繕い出来る今週のマーケットだろう。

- - - - -

ユーロが対円でも 132 円台まで強くなっている。これは ECB のドラギ総裁が賃金の上昇

傾向など欧州経済に関して強気の見方を披露したことで生じている。ドル安と言うよりはユーロ高で、ドルは対円では 112 円台の後半となっている。イギリスとの離脱交渉の大詰めを控えてこのままユーロが上昇するかどうかは不明だが、アメリカに続いて欧州経済の強さがマーケットで意識され始めた兆しとも受け取れる。

今週の FOMC は利上げを行うとの見方が強い。指標 10 年債の利回りで見たアメリカの長期金利は「それ以上どんどん上がる」という動きではないが、3%を超えたところを推移している。日本時間の今朝段階の水準は 3.089%。しかしマーケットは「政策金利の打ち止め時期」を意識し始めている兆候が見える。それは来年の比較的早い時期かもしれない。

先週アメリカが 2000 億ドル分で 3 度目の対中関税引き上げ発動を行い、これに対して中国が 600 億ドル分のアメリカの対中輸出に対しての報復を発表した米中貿易摩擦に関しては、アメリカ側はムニューシン財務長官らが中国との話し合いを希望しているようだ。しかし「中国側がこれを拒否している」（ニューヨーク・タイムズ）との報道がある。中国側には、「ムニューシン財務長官らと話し合っても、トランプがそれをひっくり返す危険性がある」との不信感があるためと言われる。実際に先の「棚上げ」合意ではそれが起きた。

なので中国側としては 11 月に予定されている「習近平とトランプ両トップでの会談」での決着を狙っている可能性が高い。ということはお互いの輸出に高関税をかけた状態が少なくとも 2 ヶ月ほど続くことになる。経済活動にとって「時間」は決定的に重要だ。多分 2 ヶ月での決着なら中国経済への打撃は大きいだろうが、アメリカ経済への打撃はそれほど大きくないと思われる。今週はその辺の展望も開けるかも知れない。

国内政治に行き詰まったトランプ大統領は「米朝首脳会談は、間もなくシンガポール以外の場所で開かれる」と述べている。完全に中間選挙を睨んだ国内向け発言で、中味無視の嫌いがある。一回目も特筆に値する中味はなかったが、次に開いて北朝鮮ペースが鮮明になれば、トランプ大統領は国内の混乱に加えて外交でも「口だけ」と見られる危険性がある。この辺を彼や側近達がどう読むかだ。

- - - - -

09月24日（月曜日）

振替休日

中華圏の中秋節

中国、台湾、韓国（～26日）市場休場

独9月Ifo景況感指数

米8月シカゴ連銀全米活動指数

米2年国債入札

09月25日（火曜日）

7月30、31日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨

8月企業向けサービス価格指数=8時50分

FOMC（～26日）

米7月S&PコアロジックCS住宅価格指数

米7月FHFA住宅価格指数

	米 9 月 CB 消費者信頼感指数
	米 5 年国債入札
	米セールスフォース主催の開発者会議 「ドリームフォース」開催(～28 日)
	香港市場休場
0 9 月 2 6 日 (水曜日)	40 年国債入札
	パウエル FRB 議長会見(経済見通し発表)
	米 8 月新築住宅販売件数
0 9 月 2 7 日 (木曜日)	黒田日銀総裁講演(全国証券大会)
	NZ 準備銀行金融政策決定会合
	インドネシア中銀政策金利発表
	米 4～6 月期 GDP 確定値
	米 8 月耐久財受注
	米 8 月中古住宅販売仮契約
	米 7 年国債入札
0 9 月 2 8 日 (金曜日)	9 月 18、19 日開催の日銀金融政策決定会合 の「主な意見」
	8 月労働力調査・有効求人倍率
	8 月鉱工業生産
	8 月商業動態統計
	2 年国債入札
	米 8 月個人所得・個人支出
	米 9 月シカゴ購買部協会景気指数

《 have a nice week 》

2 週続けての 3 連休。皆様はいかがお過ごしでしたか。でも正直言って「ちょっと調子が狂う」感じ。私の場合は毎週月曜日はテレビの仕事があって「遠出する」という選択肢がない。なので「ちょっと中途半端」の印象が強い。

大相撲は日曜日が千秋楽でした。白鵬は見事な優勝。一時は「体力も衰えたか」と思いましたが、どっこい強い。稀勢の里は毎日ハラハラして見ていましたが、なんとか 10 勝。しかし中味は良かったり悪かったり。その意味で来場所が正念場でしょう。再び休場は難しいし、出れば 12 勝くらいはして欲しい。

心配なのは稀勢の里だけではない。大谷がこの数試合ちょっと不振。一時は「3 割復帰も」と期待していたが、この 2 試合くらいはヒットも出なくて、打率も 2 割 8 分を割りそうな所に来ている。MLB のサイトを見たら今日は日本時間午前 11 時からの試合で、レンジャース相手。対アストロズでは良いピッチャーが続いて打てなかった。彼にはあと数本 HR を打って

もらって、是非新人王をとって欲しい。

大坂なおみ選手は日本での東レ・パンパシフィックでは準優勝でした。しかし全米で優勝して直ぐの試合。疲れがあったのに「よく準決勝まで」という印象が強い。今後も期待できると思う。

それでは皆様には良い残りの一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》